



いま 現代 — 皆様と共に



神奈川県合唱連盟 副理事長 藤原 規生



© 中村 年孝

新しい年を迎えました。新しい手帳、新しいカレンダー、お年玉！

冬の凛とした空気の中で、人々が暖を求め肩を寄せ合い囲む。もうじき訪れる春を待つこの時期はインフルエンザや風邪とのたたかいはあるものの、何か新しいことが始

まるような、新しいことに会うようなそんな期待感のある季節です。

学生さんにとっては試験や進級や卒業という、ある意味乗り越えなければいけない試練の時かもしれませんね。でもその向こうに輝かしい未来があると思います。

ご挨拶が遅れました。神奈川県合唱連盟で志澤彰先生と福田美知子先生という素晴らしい先輩方と共に松村理事長のもと副理事長を務めさせていただいております藤原規生と申します。僭越ながら2013年度のカノン冬号(2014年新春)の巻頭言を書かせていただくことになりました。

皆様には日頃より大変お世話になり有難うございます。合唱連盟に関わる全ての皆様様に深く御礼申し上げます。そして本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

今年も県連の様々な事業で皆様の普段の歌声を聴かせていただくことを楽しみに待っております。

県連は様々な人の思い、情熱、責任感で成り立っています。そこには根底に信頼関係があります。理事、主事、監事、事務局員。事業ごとにお集まりいただくスタッフバ

ンクの皆様。長年にわたりご協力をいただいている県立音楽堂を始めとする各ホールの皆様。関係の業者の皆様。そして何よりも「人の声は何と美しく温かいのだろう」と高らかに歌ってくださるジュニアからシニアまでの幅広い世代の合唱団の皆様。会場に聴きにきてくださるお客様。

まさにお一人お一人の心が寄せられて「現代(いま)」があることを嬉しく思います。

私は指揮者として合唱団の練習時に、ふとすることがあります。「今、練習しているこの時間、同じ曲を歌っている合唱団が日本中のあちこちにあるのでは、もしくは外国の曲ならば世界中のあちこちに・・・」と。そう思うと無性にうれしくなり世界が広がります。また外国の作品に向かう時、訪れたその国に思いを馳せることがあります。教会の風景や街の喧騒で出会った人を思い出すこともあります。

また訪れたことのない国や地域に憧れを抱きます。このような感情は子供でも大人でも誰もが持てる普通の感情。しかし現代の忙しさのなかでは、この普通の感情や感動が薄れてきているような気がします。全員が同じようなスマホやiPadを持ち、同じような検索をして美味しい店に並ぶ。メールばかりで大切な方に手紙を書くことすら億劫になる。こどもたちはそんな大人たちの創った環境に身を置いて育ちます。発想力や思考能力が乏しくなるのは当然かもしれませんね。

歌を歌うことで広がる心の世界を愛しみ、そのことの素晴らしさを今年も皆様と共に分かち合い、広げていけるよう、私達も微力ながら皆様のお世話をさせていただきます。自分だけが歌って楽しい歌ではなく、聴いている人の心に届く歌を！大いに心の歌を奏でて下さいね。

第68回関東 合唱コンクール

第68回関東合唱コンクールが平成25年9月21日（土）・22日（日）の両日に新潟市民芸術文化会館りゅーとぴあに於いて、また平成25年9月29日（日）に静岡市清水文化会館マリナートに於いて開催されました。新潟会場は中学校・高等学校部門、静岡会場は大学職場一般部門の開催です。筆者自身も4年ぶりの関東大会出場を果たし、久しぶりの関東大会の雰囲気を味わうべく静岡会場へ行って参りました。



静岡市清水文化会館マリナート

静岡市清水文化会館マリナートはJR清水駅とペDESTリアンデッキで繋がっており、道路を挟んだ反対側には海産物を扱った市場や売店・食堂があり、更にその向こうは海というロケーション。また隣接地にはJリーグ清水エスパルスのスポンサーが運営する「エスパルスドリームプラザ」という商業施設があってシャトルバスで行き来でき、合唱以外でも十分に楽しめる場所でした。そして我々が演奏する大ホールはライトブラウンの木目調に統一された定員1,513席の清潔感あふれるホールで、更に天井も非常に高く響きも良く、歌い手も聴き手も気持ち良く演奏を楽しめるホールでした。

大学職場一般部門は、今大会より演奏区分の変更が実施されての開催でしたが特に混乱もなく、神奈川県代表の団体は勿論、どの団体も県大会より更に磨きのかかった演奏をされていたように感じました。

神奈川県代表の審査の結果は以下の通りです。

（カノン編集部 鈴木 行）

中学校部門

◆混声合唱の部	
横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校	銀 賞
◆同声合唱の部	
清泉女学院中学音楽部	金 賞 (全国)
厚木市立南毛利中学校合唱部	銅 賞

高等学校部門

◆A グループ	
清泉女学院高校音楽部	金 賞 (全国)
日本女子大学附属高等学校コーラスクラブ	金 賞 (全国)
桐蔭学園女子コーラス部	金 賞
神奈川学園中学・高等学校女声合唱団	銅 賞
◆B グループ	
北鎌倉女子学園コーラス部	銅 賞
県立多摩高等学校合唱部	銅 賞

大学職場一般部門

◆大学ユース合唱の部	
La Pura Fuente	金 賞
TAMA STAR SINGERS	銅 賞
◆室内合唱の部	
合唱団たまと	金 賞
アンサンブル藤沢	金 賞
かながわフリーダム・シンガーズ	銀 賞
富士通川崎合唱団	銀 賞
◆混声合唱の部	
コール・キリエ	銀 賞
◆同声合唱の部	
湘南はまゆう	金 賞 (全国)

第66回全日本 合唱コンクール全国大会

今年度から編成区分が変更になったコンクール。全国大会は、10月26日(土)に高等学校部門、27日(日)に中学校部門がふくやま芸術文化ホールにて、11月23日(土・祝)、24日(日)に大学職場一般部門が千葉県文化会館にて開催されました。神奈川県から出場した4団体の皆様に御寄稿をお願いいたしました。

なお、審査結果は以下のとおりです。

中学校部門(同声合唱の部)：清泉女学院中学音楽部 金賞

高等学校部門(Aグループ)：日本女子大学附属高等学校コーラスクラブ 金賞

清泉女学院高校音楽部 銀賞

大学職場一般部門(同声合唱の部)：湘南はまゆう 銀賞

清泉女学院中学音楽部・高校音楽部

大型の台風が直撃か?と危ぶまれた10月25日(金)高校生が一早く福山駅へ到着し、1時間に1本運行の福塩線に乗り込み、練習場へと向かいました。車窓から見られる増水した川には驚きの声上がるほど、目的地の先は土砂崩れのため運行中止という状態で前日からの大雨の影響を心配しましたが、福山のコンクール主催者の皆様の強い願いが聞き届けられたかのように、夕方には秋晴れの空が広がりました。

高校生の自由曲は、鈴木輝昭作曲《イエーツによる二つの譚詩》より「レダと白鳥」。昨年度のイエーツ自身の甘い恋の詩とは様相が変わり、ギリシャ神話を題材としたテキストです。全能の神ゼウスと人間の女性レダとの間に生まれた双子の姉妹(ヘレネとアウグスティネ)が、勇者アガメムノンに死をもらし、トロイとスパルタを戦火に巻き込んでいく様子を描いています。「神の叡智を人間は受け継ぐことができるのか?」というイエーツの壮大なテーマと、鈴木作品特有の複雑な和声とダイナミックな音楽に取り組んだ3ヶ月でした。オーストリア遠征の出発前日に楽譜をいただき、皆で大慌てで印刷、製本して飛行機に持ち込んだこと、遠征を満喫した帰りの飛行機の中で、夏休みの宿題と譜読みを行う生徒達がとても頼もしく思ったことが、つい、昨日のことのように思い出されます。県大会までの1ヶ月は音程とリズムの確保に明け暮れる毎日、関東大会直前では、森閑とした湖に突然起こった出来事や、トロイの戦争の大スペクタクルの場面を描くまでに至り、練習中の皆の顔の輝きが、日々変化していくようになりました。そして全国大会のステージでは、本番前に恒例の円陣組み、共に励まし合い心を合わせてイエーツの世界を描き出せた最高の一時でした。金賞には一步届かず、生徒達はちょっぴり残念がっていましたが、新しい音楽の創造に向けて私達の音楽を完成することができた喜びは、何にも代え難いものでした。

中学生の演奏曲は 高校音楽部が「第49回セグッツイ国際合唱コンクール現代曲部門、民族音楽部門」で優勝した際に鈴木輝昭先生に委嘱した記念作品“Benedic, anima mea, Domino (私の魂よ、主をたたえよ)”と、リトアニアの作曲家ミシュキニスの現代宗教曲“Ave Regina coelorum (幸いあれ、天の女王)”です。“Benedic, anima mea, Domino”は、定期演奏会で歌い継いで欲しいという音楽部卒

業生の想いが託された合唱曲で、今年度、中学生が「声楽アンサンブルコンテスト全国大会」「全日本合唱コンクール全国大会」「NHK全国学校音楽コンクール全国大会」で、高校生が「European Choir Games = Austrian open competition 2013」で歌い、卒業生の願いと成果を受け継ぎ完成させることができた作品です。技術的には、三群10パートの複雑な和声、内容の面でも天使の声と地上の民の掛け合いに喜びのアレルヤコーラスという変化に富んだ大作で、中学生にはハードルが高いものでした。ラテン語の流暢な発音、天使の声を表現するために、ヴォイストレーニングなどの基礎練習にかなりの時間を費やしたものです。当日は、神への讃美と感謝の声を響かせようと心一つに歌い、その結果としての「金賞受賞」に喜びと安堵の声をあげていました。

台風の影響を懸念し予定より一日早い金曜日の夜に広島入りした中学生は、高校A部門全団体を鑑賞、勉強させていただき、表彰式の前には参加校の皆と歌を通して交流し合い、憧れの高校生と80人一緒の夕食を楽しむことができ、自分たちの演奏以外にも充実した時を過ごしていました。最終日は、世界遺産「宮島」で、朱塗りの鮮やかな大鳥居をバックに写真撮影し、鹿と戯れ、広島風お好み焼きを食べ、楽しい思い出を胸一杯に広島駅を後にしました。

中学、高校生揃って、広島の地を踏むことができましたのも、神奈川県の皆様方の温かい応援の賜物と感謝申し上げます。今後とも、互いの心を重ね合わせながら、共に歌えることの喜びを感謝しつつ、鮮やかな清泉サウンドを目指し歌って参ります。

清泉女学院音楽部顧問 佐藤美紀子



日本女子大学附属高等学校コーラスクラブ ～全国大会に寄せて～

10月25日(金) 2つの台風の動向を気にしながら、私たちは8時半発の「のぞみ」に乗り込みました。普段、お天気のことなど気にもとめない晴れ女の私も、この日はかなり気が小さくなっていました。

とにかく無事に、福山に到着できますように…。新幹線の窓の景色はどんよりと重い雲がのしかかり、時折激しい雨が打ちつけていました。そんな心配もよそに、予定通り福山に到着。雨は降っていたものの台風の影響はなくなり、安心してバスで練習会場へと向かいました。夕刻から始まる代表者会議に出席し、その後に行われたホール見学でリーデンローズの舞台と薔薇色の素敵な座席の広がる大きな空間を初めて目にしました。

どのように並んだら美しく、自分たちの響きを届けられるだろうか、思いを伝えることができるだろうか。Aグループ15校中の2番目に歌わなくてはならない現実、その不利さを痛いほど感じていました。

そして、まっすぐな生徒たちに、私は日頃から言い続けてきました。「精一杯の演奏をして、思うような結果をいただけなくても悔いの残らない演奏をしましょう。」

26日(土) 本番当日は、5時起床。6時朝食。



7時には練習会場へ急ぎました。地元の方の温かいご厚意で、小1時間の早朝練習ができました。やるべきことをすべてやり、あとは精一杯の心を込めた演奏をするのみと心に決めて本番会場へ。リーデンローズにはすでに沢山の人が並び、卒業生やご家族から温かい励ましの言葉をいただきました。本番前に2つの響きの異なるリハーサル室を巡り、最後の練習でわかったことは、響きの違いはあれ、表現や実力は変わらないのだから、どのように評価されるかを心配せず伸び伸び歌うことが大切。本番は、自分たちの音楽を信じて表現することに集中しました。

結果はまさかの金賞をいただき、喜びの黄色い歓声が響きました。猛暑の夏に磨いてきた精神力、音楽性。築き上げてきた信頼関係…すべてが力強く、大きな華となって輝きました。

2年連続の全国大会金賞受賞は、これからの大切な原動力となり大きな励みになると思います。

神奈川県合唱連盟事務局の皆様、本番当日の応援メッセージをありがとうございました。

日本女子大学附属高等学校コーラスクラブ
丸山恵子

湘南はまゆう ～全国大会銀賞への道のり～

5回目の全国大会で初めての銀賞。努力や練習は、たゆまず続けていけば、本当に形になるのだと、しみじみと嬉しさに浸っています。

今回の自由曲『おかる勘平』は、信長貴富先生の委嘱作品で、実は2年前のコンクールでも歌っています。テキストは歌舞伎の名演目「仮名手本忠臣蔵」が下敷きになっており、夫勘平の死を嘆き悲しむおかるの心情と、その描写をする詩人北原白秋の客体の視点が入り混じっています。

曲へのアプローチはまずその主客の謎解きから始まり、歌舞伎や文楽鑑賞で伝統芸能の奥深さに目覚め、北原白秋の人となり調べては嘆息し、更には曲の難しさに四苦八苦しつも、立ち上る色と匂いと音楽の魅力～異国情緒と官能が香る世界に、初めは戸惑いましたが、ぐんぐん引き込まれていきました。

2年前は、いざ全国大会へと盛り上がっていた関東大会で惜しくも全国の切符を逃し、持て余してしまったエネルギーを初の合宿へと振り向けました。全国大会の日程で、急遽箱根にお宿を探し、余興におかる勘平芝居を計画します。古本屋で見つけた脚本本集から勘平切腹の段の台本を起こし、配役を決め、衣装小物を揃えていくうちに、あれよという間に本格的になっていきました。

合宿の夜は、文楽仕立てで袴姿の太夫やお三味線も揃い、手縫いの赤黒緑の歌舞伎幕にダンボール製の駕籠もしつらえ、支度部



屋で着付けを整えた役者たちが台本片手に演技、と相成りました。他の合唱団を率いて全国大会の青森の会場にいらした指揮者とピアニストに芝居の画像を送りつけ、さぞや驚かれたことと思います。さらに、折からの嵐で屋根からは雨漏り、おふとんは文字通りの煎餅で、部屋の真ん中に天井をくりぬいて杉の太木が2本植わっている「杉の間」という名の宴会場、などなど語り草満載で、伝説の合宿となったのでした。

翌年のコンクールでは他の曲を選んで全国へ返り咲き、1年間じっくりと熟成した後、再び「おかる勘平」に取り組みました。歌えば歌うほど表現したいことが増えていく、奥の深い魅力を味わいました。2013年はコンサートの他、コンクールの県、関東、全国のステージ、そして12月の舩の会とのジョイントコンサートとたくさんの演奏の機会を得、念願の楽譜の出版も実現し、まさに「おかる勘平」Yearとなりました。

一足飛びにいろいろなことができない年代の私たちですが、地道な積み重ねで、皆でひとつのものを創り上げていく喜びは格別です。

これほど愛情を注ぎこめる作品に出会えたことも、その魅力を存分に引き出せる指揮者、ピアニストと、仲間たちと過ごした時間も、本当に幸せでした。感謝して、これからもいい演奏をしていきたいと思っています。

湘南はまゆう 青山 道代

第48回クリスマス音楽会 「メサイア」演奏会

第48回を迎えた「メサイア」演奏会が12月15日(日)に県立音楽堂で開催されました。

出演は、指揮：小泉 ひろし／管弦楽：神奈川フィルハーモニー管弦楽団／ソリストには、ソプラノ：市原 愛／アルト：上杉 清仁(カウンターテナー)／テノール：中嶋 克彦／バリトン：加未 徹／チェンバロ：長久 真実子／オルガン：宇内 千晴(敬称略)という第46回の演奏会に出演された方々に再びお越しいただいた演奏会となりました。

合唱は、神奈川県合唱連盟から計21団体・132名(ソプラノ：41名・アルト：39名・テナー：19名・バス：33名)

そして、音楽堂「メサイア」未来プロジェクトの一環としてハレルヤから終曲までに昨年度の県立海老名高等学校、県立大和西高等学校に加え県立生田高等学校、県立湘南高等学校の計4校の高校生88名が参加を致しました。

このように高校生の参加を増やした分、従来に比べ合唱連盟の参加人数が絞り込まれ、毎年「メサイア」の参加を楽しみにされていた方の応募も受けきれない状況となりましたが、これは「音楽体験の場として次世代に継承する」という県立音楽堂の方針に沿った対応によるものです。

狭き門を通過した参加者の練習開始は、この残暑の暑い時期に?と思われましたが、幸か不幸か季節外れの台風で、残暑はもちろん秋の季節まで根こそぎ何処かへ吹き飛ばされ「メサイア」の練習初日は、例年通りの冬の日の開始となりました。

高校生の練習には、音楽堂からの依頼により、松村理事長、志澤副理事長が学校に出向くなどして、重点的にご指導されました。

合唱連盟からの参加者については、昨年度より練習回数を1回増やして9回、前半の3回を松村理事長、飛永実行委員長に、それ以降を小泉先生にご指導をいただきました。ただ残念なことに、練習の日に欠席される方が多く見受けられ、本番の影響が懸念される状況でした。

そうした心配を抱えた中での本番当日は、チケットが早くから完売、当然会場は満席!一方、出演者の状況は?さすが合唱連盟の皆さん!心配が嘘のように本番当日には、病欠3名以外、全員が参加!特に「ハレルヤ」の演奏では、若々しい高校生の歌声も加わり、会場から拍手喝采をいただきました。高校生の皆さんにとって、きっと思い出に残る素晴らしい経験をされたのではないかと思います。

来年度こそは、“毎回全員が練習に参加”その成果として、来場されたお客様の心に届くような歌声を会場一杯に響かすことができたらと思います。

(副実行委員長：藤雄 太久夫)



© 青柳 聡



第19回ヴィサン《人生百歳》 ジョイント・コーラスフェスティバル inよこはま 実行委員長 杉山 範雄

平成25年11月14日(木)『第19回ヴィサン《人生百歳》ジョイント・コーラスフェスティバル inよこはま』が、横浜みなとみらいホール大ホールにて開催されました。今年気になったのは天気…異常気象ともいえるべき10月の6つの台風接近…秋と言えば日差しも落ち着き、少し涼しめの毎日となるはずが、今年は夏の再来!?暑い毎日が続き、11月に入って上がったりがつたりの気温に竜巻やら突風やら…本番当日はどうなってしまうのだろうと不安でなりませんでした。当日は穏やかな“秋らしい”天気に恵まれました。今回は県外から3団体(岐阜県、東京都2団体)、そして5団体の初参加があり、全30団体、総勢866人が集まりました。講師には、指揮者・声楽科の大門康彦先生、声楽家の田中奈美子先生をお迎えし、各団の講評、ブロック毎の全体講評を頂きました。今年でヴィサンも19回目、来年はいよいよ20回記念となるため、昨年から制定した『講師の先生方がとても印象に残った団体』に贈られる『エフォル賞(フランス語:努力)』(※昨年の講師賞から改名)の他に、記念イベントとして『何についての表彰かは、発表までのお楽しみ!』とした“ヴィサン賞”を設けました。

今回の第1曲目は横浜を代表する『赤い靴』で始まり、12名の少人数アンサンブルから80名以上の大合唱まで、アカデミックな合唱曲に唱歌、童謡、ミュージカル、イタリア歌曲、美空ひばり、タンゴ、シュトラウスのマーチに仏教讃歌等々、バラエティーに富み、元気で素晴らしい演奏を披露して下さいました。全員合唱として各ブロックの間に連盟歌『朝の光に』、ブロック最後にはヴィサンのテーマソング『歌があるから』を歌いました。初参加の団体には花束を、イベントのヴィサン賞として、90歳以上の参加者には特別賞の記念品を、多年に亘りフェスティバルに参加下さった団体

には、出演回数に応じて、ルパン賞、バンブー賞、プリュニエ賞を感謝の意を込めてお贈りしました。

エフォル賞(フランス語:努力)〔講師賞〕

男のコーラス・ドッグウッド
混声♪青葉
女声合唱団横浜木せい会
杉山神社幼稚園コールなおび
茅ヶ崎童謡の会しおさい

ヴィサン賞

ルパン賞(フランス語:松)〔19回全回出演〕

合唱団ローズ ブルースカイ

バンブー賞(フランス語:竹)〔出演15回以上〕

コーロ・セレーナ (18回) ザ・シワクチャーズ横浜(18回)
JIRA 男声合唱団 (18回) ひまわり会 (18回)
おたまじゃくしの会 (17回)

プリュニエ賞(フランス語:梅)〔出演10~14回〕

コール・コサージュ (14回) 男のコーラス・ドッグウッド (12回)
コール・ダンヘル男声合唱団 (12回) 混声♪青葉 (12回)
財) ライフプランニングセンター「新老人の会」コール バンダナ&
コールアミカ (12回)
杉山神社幼稚園コールなおび (11回)
福女こら合唱団 (10回) 男声コーラス“ひよこ” (10回)

特別賞〔90歳以上の参加者〕

男のコーラス・ドッグウッド 93歳1名(※同一)
混声♪青葉 93歳1名(※同一)
財) ライフプランニングセンター「新老人の会」コール バンダナ&
コールアミカ 93歳1名、92歳2名、91歳1名
ザ・シワクチャーズ横浜 93歳1名 90歳1名
ブルースカイ 92歳1名

初参加

コール アミーケ(東京都)
コール響(横浜市)
茅ヶ崎童謡の会しおさい(茅ヶ崎市)
女声合唱団ぶどうの会(鎌倉市)
栄女声合唱団(横浜市)



実行委員のみなさん

来年の20回記念に向けての楽しいプログラムと新たなヴィサン賞の制定等々、盛りだくさんに企画しております。是非来年の第20回記念ヴィサンにご参加下さい。お待ちしております。

カノン突撃 インタビュー！



今回は、第19回ヴィサンの舞台、みなとみらいホール大ホールにおじゃまして、舞台袖のみなさんの出演前や演奏後の表情をキャッチしてきました。

どの方も本当にいきいきとされていて、年齢を伺ってびっくりの連続でした。やはり健康でないとできないことですが、いくつになっても、やりたいことがあり、行きたいところがあり、会いたい人がいるということは、とても大切に素晴らしいことだと思いました。ずっと歌い続けていきたいですね！！

(カノン編集部 吉田千鶴子、青山道代)

◇茅ヶ崎童謡の会しおさい（初出場）

すごくいい会場でわくわくしています。最高齢は91歳、平均年齢は76歳です。茅ヶ崎の勤労会館で月2回練習しています。今日は100円の手縫いの小物で出演です。素敵なドレスもいけれど、個性を出して楽しく歌いたいです。

◇合唱団ローズ

意気込み？普通のレッスンの延長で普段通りに歌います。最高齢は86歳、平均年齢は77、8歳です。70過ぎるとみな同じ。もう19回連続出場で、全然緊張していません。本番に強い私たち、楽しく明るく歌います！

◇栄女声合唱団（初出場）

大きな会場でドキドキしましたが、自信になります。気持ちよかったです。

12月2日にリリスホールで演奏会があり、その中の2曲を歌います。最高齢84歳、平均年齢は69歳。笑顔が売り物のわたしたちです！生活の中で一番楽しい時間。いつまでも続けたいです。

◇混声♪青葉

最高齢は93歳（とても姿勢がよく、フリルのついたシャツと玉虫色のベストの制服がお似合いの男性です）。本格的に始めたのは20年前、こんなに楽しいものはない、いきがいです。先生は厳しいですが練習は楽しいです。

体が許す限り歌い続けます。今日の意気込みは、間違えないで歌うこと。

◇JIRA男声合唱団

早くから練習していて疲れたよ。舞台が最後の練習ね。ヴィバルディの四季をダバダバでかっこよく歌うわけ。3か月で仕上げたよ。最高齢は85歳が二人でそれぞれトップテナーとバスの重鎮。平均年齢は78？72？いや75（あちこちから声が・・・アバウトです）

カノン？不可能を可能にするのね、頑張ってね（励ましていただいちゃいました。）

*ちなみにJIRAとは、日本画像医療システム工業会のことです。

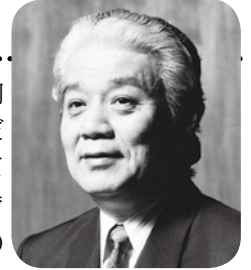


いきいきと
歌われていた
みなさん



合唱指揮活動 60 周年を迎えられる 吉田孝古麿先生

吉田孝古麿先生といえば、作曲、編曲、訳詞、作詩も手掛けるマルチな合唱指揮者で、ポップスのステージでは颯爽と足取り軽やかに登場される！というイメージがあるのですが、今年なんと傘寿を迎えられます。神奈川県音楽界にも、多大な功績を残し続けている先生に、音楽活動 60 年の歴史を伺いました。



◆先生が音楽の道に進まれたきっかけは何でしょうか？

家庭は音楽的な環境ではなかったのですが、中学 3 年の時、音楽担任の先生に、ピアノを教わることになり、1 年で 5 年分くらいみっちり、朝から放課後まで毎日音楽室のピアノを弾いていたことですね。その後、新制高校へ進学してからは混声合唱部を立ちあげ、先生の代わりに合唱部の指導をしていました。楽譜がなかったので、教会の讃美歌を教材にアカペラの練習をしたり、音楽っていいものだなと思いました。中学では音楽をする男子は軟弱と思われるのが嫌で、スポーツもいろいろやりましたよ。

◆大学の進路は音楽ではなかったのですか？

父親が役所勤めをしていたので音大は反対されましたが、音楽の勉強を続けることを条件に学習院大学政治学科へ進学しました。大学に通いながら（故）石渡日出夫氏（作曲家）のもとで和声学・対位法・楽式論などの作曲法を学び、高校合唱部の指導も続けていました。3 年になり就職を考えた時にやはり音楽をやりたいと大学中退を決意しました。

当時はうたごえ運動が盛んで、職場の合唱団がたくさんあり、アルバイトで指導に行っていたので、何とかなると思ったのです。昭和 31、2 年頃ですが、合唱指揮者などという職業はほとんど認知されていなかったのだから、“棒フラ”ですから、家は大変でしたね（笑）

◆それから 60 年続けてこれた秘訣はありますか？

音楽は生活の一部で、仕事とプライベートという感覚はないですね。指導に出かけるからには、足腰がしっかりしていないといけないので、早足で歩いたり、階段を一段おきにリズムを付けて上ったりしています。誕生日検診も欠かしません。未だに老眼のメガネは不要です。教えに行くと思うと疲れるので、一緒に創り楽しむという気持ちでいます。一方通行でなく、歌い手とのキャッチボールですね。

◆これまでに一番印象に残っていることは何でしょう？

音楽の仕事について、父親は志を通すということで認めてくれましたが、母親は世間体が気になるのか、ずっと演奏会に来なかったですね。29 歳で結婚した数年前、自分でピアノを買ったとき、やっと一人前になったと思ったのか、演奏会をこっそり聴きに来てくれるようになりました。そのことについて直接話したりすることはなかったのですが、入院中に指揮のマネのようなことをしていたと看護婦さんから伺った時は、母なりに許してくれていたのではないかと思います。母の葬儀の時には、偶然県合唱祭の前でしたので仕事を優先して通夜には遅れて出席、葬儀には出ず、作曲作品の CD を流してもらいました。母も、そうすることを望んでいたに違いありません。

オフィシャルなプロフィールでは伺えないお話をたくさん聞かせていただきました。「エーデルヴァイス」など音楽教科書の作詩・訳詞はお馴染みですが、作曲・編曲された作品は 1500 曲以上になるそうです。その中には、合唱団の団員の結婚式の時にみんなで歌う「祝婚歌」のプレゼントも 200 曲以上が含まれているとのこと。練習の皆勤賞の方にはおしゃれな音楽小物のプレゼントをお渡しするなど、優しいお心遣いに触れた方もたくさんいらっしゃるようです。

神奈川県合唱連盟との関わりでは、設立と同時に高校理事となり、19 年間副理事長を務め、1990～1996 年理事長就任、現在は顧問を務められています。

理事長在任中には、シニア部の創設と独自の演奏会として「ヴィサン」を立ち上げ、テーマソングの『歌があるから』を作曲。ジュニアコーラスにも深く関わり、オープニングに歌われる『そよ風はともだち』を作曲。機関紙の発刊も行い、「カノン」（ドイツ語では「カーノン」）という名前の名付け親でもあります。

横浜市では、ヨコハマ・コーラルフェストを立ち上げ、実行委員長を 25 年務められたほか、県立音楽堂おかあさんコーラス顧問、国際シニア合唱祭「ゴールデンウエーブ in 横浜」の初代開催委員会会長を務められました。2004 年には横浜文化賞受賞、2006 年秋の叙勲で旭日双光章を受章されています。

現在 10 団体の合唱団の指揮・指導のかたわら、作曲・編曲、作詞・訳詞、各種講座や合唱祭の講師等積極的な活動を続けておられます。

2014 年は 20 歳から職業として始めた合唱指揮活動 60 周年記念イベントとして、以下の 3 つのコンサートが予定されています。これからもますますのご活躍をお祈りいたします。

（カノン編集部 青山道代）



- ・3/9（日）Part I
作曲作品リサイタル 杉田劇場
- ・7/13（日）Part II
アレンジばんざい！オリジナル編曲作品コンサート
横浜みなとみらいホール大ホール（指導 10 団体出演）
- ・12/7（日）Part III
横浜混声合唱団「三三七拍子合唱コンサート」④
《マロ先生のハットトリック》横浜関内ホール

小田原少年少女合唱隊創立50周年に寄せて

神奈川県を誇る優れた児童合唱団、小田原少年少女合唱隊が2013年創立50周年を迎えられました。幅広い演奏活動のほか、コンクール等でも優秀な成績を収め、海外でも活躍されているばかりでなく、合唱を通じてまっすぐに育てられた子どもたちの礼儀正しい姿には、心を洗われるものがあります。ご指導の桑原妙子先生に、50周年の記念行事とこれまでの歩みについて御寄稿いただきました。



50周年記念演奏会を3回開催しました。Ⅰ回目は6月9日（東京オペラシティコンサートホール）ドイツのリューベック歌劇場音楽監督の沼尻竜典氏の指揮、トウキョウ・モーツァルトプレーヤーズの協演で、湯山昭作曲・中山知子作詩の「子どもシンフォニー」、プーランク作曲の「グローリア」、フォーレ作曲の「レクイエム」の3ステージを5歳から高校3年生までの少年少女、卒業生のマルベリー・チェンバークワイア、OB有志の120名で歌いました。沼尻先生が登壇前に、ステージ袖で「おっ凄い、満席だ!」と喜んで下さったように、大勢の方々にご来場頂きました。演奏後は「ブラボー」の声と共に盛大な拍手を頂き、感激のうちに無事に終了致しました。Ⅱ回目は9月15日（秦野市文化会館）世界的伴奏ピアニストのヘルムート・ドイチュ先生（ミュンヘン音楽大学教授、ソプラノ鮫島有美子氏夫君）をお迎えしました。前半は本邦初演のアカペラ作品と、50周年記念委嘱作品のスペイン・バスク地方の作曲家シャビエル・サラソラ氏の「正しい者はナツメヤシの木のように栄え」世界初演を、後半はドイチュ先生に15周年～30周年まで15年間に指導、協演して頂いた日本民謡、ブラームス、シュトラウスなどの作品を演奏しました。Ⅲ回目は12月15日（小田原市民会館）43年前から演奏しているブリトゥン作曲の「キャロルの祭典」（ハープ＝篠崎和子）や、振り付け・衣装・照明付きで46年前から演奏しているチャイコフスキー作曲の「くるみ割り人形」を中心に楽しいクリスマスコンサートを開催しました。3年前の東日本大震災以後チャリティコンサートとして開催し、現在までに相馬・双葉地方震災孤児支援金に250万円以上を、小田原市交通遺児義援金援護基金に15万円以上を寄付しています。

創立の経緯 フェリス音楽教室で指導していた、日本女声合唱団のメンバーだったことから私に指導の依頼がありました。「週2時間だけ」から始まりましたが51年経った現在では土曜日7時間、日曜日午前は合唱隊、午後は男声、女声、混声のマルベリー3団体の練習で、朝9時から夜9時まで、ということも多々あります。

活動目標と運営 「歌いたい子どもの心を大切に」と保護者のボランティア活動として運営され、50年間で120名に及ぶ運営委員により支えられています。OB会には220名が在籍し、演奏会の裏方や合宿の手伝い、コンサートの合同演奏などの活動をしています。

海外演奏旅行・コンクール 1978年に虎ノ門ホールで開催された全日本ママさんコーラス全国大会の審査待ちで歌わせて頂きました。その際「ウィーンのコンクールに」と声をかけて頂いたのが初の海外演奏旅行となりました。その

他に合唱隊とマルベリー・クワイアで次のように参加しています。1979年ウィーン青少年コンクール（4位）1983年ハンガリー、イタリア・アレツツオコンクール（3位）、1986年ハンガリー・コダーイコンクール（1位）ISMEインスブルック（日本代表）、1989年スペイン・カントニグロスコンクール（3位）1990年ハンガリー・ジャパンフェスティバル、イギリス、1992年ISME韓国ソウル大会（日本代表）、1995年イタリア・アレツツオコンクール（1位）1996～1997年オーストリア、チェコ・オンドラシェク合唱団30周年記念演奏会招待演奏、1999年世界児童合唱祭中国北京大会（日本代表）、2001年世界児童合唱祭、ソングブリッジカナダ・バンクーバー大会（アジア代表）2006年チェコ・プラハコンクール（1位、最優秀発声賞、最優秀指揮者賞）ドイツ、オーストリア、2012年イタリア・リヴァデルガルダコンクール（1位）**国内のコンクール全日本** 1976年県大会初参加で最優秀賞、1999年全国大会で児童合唱団として初の金賞受賞。マルベリー（女声）は数回の金賞受賞後1998年総合1位、同年マルベリー・チェンバークワイア（混声）は初参加で総合3位を受賞。1985年の**宝塚国際室内合唱コンクール**参加をきっかけに結成したマルベリー（女声）は総合1位グランプリを受賞。**海外からのお客様**と一緒にジョイントコンサートを開催したり、レッスンを受けています。1998年（チェコ）オンドラシェク合唱団、1999年（チェコ）ヨセフ先生、2002年（イスラエル）モラン合唱団、2007年（ポーランド）プエリ・カントレス合唱団、2009年（中国）百合合唱団、2010年（フィンランド）サンナ・ヴァルヴァンヌ先生、2011年（インドネシア）聖アンジェラ合唱団、2013年（フィンランド）サンナ先生、（チェコ）ヨセフ先生、（インドネシア）ロニ先生

その他の受賞 2001年神奈川文化賞未来賞、2008年アフリカ会議野口英世賞授賞式で天皇・皇后陛下の御前演奏 2014年小田原市民功労特別賞受賞

現役時代から卒業後マルベリーへ、というメンバーも多く、数名が在籍30年以上です。親子、師弟、職場での先輩・後輩などの組み合わせもあり、和気藹々と楽しく歌っています。他者への思いを大切に、積極的に優しい心が育ってくればとの願いと共に「声は誰でも出る」、との考えでオーディションは行なっていません。東京、川崎、横浜、鎌倉、辻堂、熱海など地元以外からの参加も多くなっています。全日本の機関誌ハーモニーにも記載しましたが、大人の合唱団の皆様をお願いします。ご自分のお子さんにも合唱の楽しさを経験させてください。 小田原少年少女合唱隊 指揮者 桑原妙子

リレーエッセイ No3 指揮者の『ここだけの話』



指揮者だからこそ味わえる・・・味わってしまうおもしろエピソードを
リレー形式で 書いていただく人気のコーナー。
今回は中館伸一先生です。

指揮者は己のイメージしている音楽を、限られた練習の中で如何に的確に伝えるか？に大きなエネルギーを使う。幅広い世代の多種多様な人格が集まる合唱団に自分の想いを伝えるために、あの手この手で理解を得るための努力をする。しかし、そこには様々な困難が待ち受けている。

私は合唱団に出来る限り分かりやすい例え話を使う。スポーツ・芸能等の時事ネタは格好の材料になる、が、ここにも大きな落とし穴が待ち構えている。中学生を指導している時、「ちょっと前にこんな歌が流行ったよね～」と笑顔で語りかけると、全員が???ポカーンと口を空けて固まっている。横で見ている顧問の先生が苦笑いを浮かべている。私の《ちょっと前》は彼らの誕生前だったりする。(ああ～またやってしまった)

20年ほど指導している小学校のPTAコーラス、ある時期に今までと何か違う雰囲気を感じ始めた(この気持ちは何だろう・・・) 今まで伝わってきた事がうまく伝わらない。もやもやした感じを引きずること数年、あるとき謎が解けた！自分の年齢がメンバーの平均年齢を上回っていたのだ！そりゃー話が噛み合わない筈だ・・・それ以降は自分のスタンスが変わったので何の迷いも無くなった(めでたしめでたし)

多くの団体を指揮していると同じ話を何度も別の団ですることになるが、これがまた危険！「こんな話があってね～」と勢い込んで話していると、メンバーはやや引きつった笑顔で聞いている。(ん？あれ？もしや？) 誰か「その話はこの前聞きました」と言ってくれればいいのに、その優しさが胸を刺す(ああ～またやってしまった)

以前、某男声合唱団のコンサートで「お楽しみステージ」を追い込み練習していた時、団員が「3年分は笑った！」というネタを仕上げ「これは客席大爆笑間違いないね！」と自信を持って本番に臨んだのだが・・・シュール過ぎて客席はドン引き・・・悲しい(大役を引き受けてくれたK君ゴメンネ～)

そんなこんなの指揮者生活、日々充実していてとても嬉しい。合唱指揮者人生に乾杯！！

次回は、偉大な指揮者であり教育者であられる岩本達明先生にバトンをお渡しします。



カノンコンサートガイド

1/26 (日)	海 かなたの空へ 橋本剛作品合同演奏会 混声合唱団夢のつづき、女声合唱団みみずく会、せやあじさいコーラス、瀬谷混声合唱団、混声合唱隊 Neo-Tokyo 14:30 ~ 神奈川県立音楽堂 入場料: 1,000 円 (全席自由) お問い合わせ: 佐藤 045-363-8865 t-satou0925@jcom.home.ne.jp 橋本剛氏の作曲・編曲作品の紹介 合唱曲「かなたの空へ」(新作初演) Ave Maria 瑠璃色の地球 他
1/26 (日)	川崎混声合唱団 第 48 回定期演奏会 14:00 ~ 麻生文化センター 大ホール 入場料: 1,000 円 (全席自由) お問い合わせ: 粟飯原 044-900-3211 aihara1105ai@yahoo.co.jp 指揮: 小笠原吉秀 ピアノ: 遠藤有子 高田三郎作曲「心の四季」「フォーレ合唱曲」「団員創作曲」他
2/11 (火・祝)	日本女子大学附属高等学校コーラスクラブ 第 44 回定期演奏会 13:00 ~ 日本女子大学西生田成瀬講堂(小田急線読売ランド前駅下車) 入場料: 無料 お問い合わせ: 梶田 044-952-6711 (一般の方のご来校には招待状が必要となります。ご希望の方はご連絡ください) 指揮: 丸山恵子 高嶋みどり「きょうの陽に」鈴木輝昭「花火ひらく…」「肖像」他
2/16 (日)	第 17 回クール・コメール コンサート f (エフ) 14:00 ~ 茅ヶ崎市民文化会館 小ホール 入場料: 1,000 円 (全席自由) お問い合わせ: 明田 0467-82-3638 指揮: 斉藤悦子/吉田孝古磨 ピアノ: 金子雅代 曲: なかにしあかね「立ち止まって」中山晋平「ゴンドラの唄」
3/1 (土)	湘南レグルスエコー 4th. Concert 14:00 ~ 茅ヶ崎市民文化会館 小ホール 入場料: 1,000 円 お問い合わせ: 蒲山 0467-82-4467 指揮: 浅野深雪 信長貴富「うたうたう」石黒晶「わらべうたのカタログ」北川昇「いつかの木から」他
3/16 (日)	本牧 Ladies' Ensemble 7th Concert きらり ひらり 歌の花 13:30 ~ 横浜みなとみらいホール 小ホール 入場料: 無料 (要チケット) お問い合わせ: 石井 045-832-0148 http://honmokuladies.blog.fc2.com 指揮: 土居規子 ピアノ: 平林留貴子 大藤史「あなたへのうた」信長貴富「シング・ソング童謡集」
3/22 (土)	第 9 回松林の風コンサート～あの日を忘れない～ (東日本復興支援コンサート) ユース松林、茅ヶ崎市立松林中学校合唱部、ハーモニック松林 14:30 ~ 茅ヶ崎市民文化会館 大ホール 入場料: 500 円 お問い合わせ: 池田 0467-54-0358 10 年前に始めたワンコインチャリティコンサートも 9 回目になります。楽しくパワーあふれる演奏をお送りします！
3/29 (土)	神奈川県立多摩高等学校合唱部 第 48 回定期演奏会 18:00 ~ 多摩市民館 大ホール 入場料: 無料 お問い合わせ: 福王寺 044-911-7107 松下耕作曲、谷川俊太郎作詞「静かな雨の夜に」など様々な曲を演奏します。ご来場心よりお待ちしております！
4/13 (日)	混声合唱団 横浜ルミナス・コール 第 13 回定期演奏会 14:00 ~ 鎌倉芸術館 小ホール 入場料: 1,000 円 お問い合わせ: 下江 045-761-3744 指揮: 小久保大輔、ピアノ: 名取かほり 近代アメリカ合唱曲集 高田三郎「水のいのち」他
4/29 (火・祝)	女声合唱団「アンサンブル MIMI」 第 4 回演奏会 14:30 ~ 秦野市文化会館 大ホール 入場料: 800 円 (全席自由) お問い合わせ: 蛭川(にながわ) 0463-83-4726 指揮: 斎藤三和子 ピアノ: 鈴木真澄 オルバン「ミサ No.6」相澤直人「ぜんぶここに」横山潤子作品集 他

—— 県連からのお知らせ —— <東日本大震災に伴う義援金募集について>

神奈川県合唱連盟は東日本大震災の被災地及び被災された方々への支援の一環として、県連各行事における募金の呼びかけを行いました。同時に、神奈川県合唱連盟が窓口となり、各団体・個人からの義援金の受付も実施いたしました。その結果多数の団体、個人の皆様より暖かいご支援を頂きました。この場を借りて御礼を申し上げます。

いただきました義援金につきましては、昨年度より全日本合唱連盟の「被災地の合唱活動復興のための義援金」に寄託することになり、2013/9/20に第5回目の寄託を行いました(45,286円)。今後とも継続して募集しておりますので、合唱連盟経由での寄付をご希望される団体、個人の方は引き続き以下の口座までお届けいただきますよう、よろしくお願いいたします。

～義援金をお寄せいただいた団体・個人の皆様～

12/10 現在(前回のご報告以降)
第19回ヴィサン募金箱

【郵便振込】口座記号：00200-8-100874 加入者名：神奈川県合唱連盟

※領収書の発行はできません。また義援金への募金は税法上の寄付控除の対象とはなりませんのでご注意ください。

☆コンサートガイド掲載要綱☆

神奈川県合唱連盟に所属していれば、この「カノン」にコンサートのお知らせを掲載することができます。掲載方法は「無料掲載」と「有料掲載」があります。それぞれ、必要事項を記したものを郵送かFAXまたはe-mailにて編集室までお申し込みください。ただし、無料掲載は1演奏会につき一度だけとさせていただきます。なお、有料掲載と無料掲載の両方を希望する場合は、それぞれ個別にお申し込みください。

また有料掲載につきましては、神奈川県合唱連盟に所属していない団体からも掲載を受け付けることが可能です。その場合の料金に関しては、下記掲載料の倍額とさせていただきます。

1 無料掲載：①合唱団名 ②演奏会名称 ③開催日時 ④会場 ⑤入場料等 ⑥問い合わせ連絡先(Tel/Fax/e-mail/HPの記載可)
⑦コメント(50字以内)を掲載いたします。下記申込書に記入後、メール、FAXで事務局までお申し込み下さい。

2 有料掲載：1/8号 2,500円(1/4号 5,000円、1/2号 10,000円、1号 20,000円)での有料掲載を行います。希望するサイズでの版下を作成し、メール、FAX等でお送り下さい。内容は基本的に自由ですが、事務局がカノンに掲載することがふさわしくないと判断したもののについてはお断りすることがあります。

※カノン発行月と原稿締め切りの予定：春号 4月10日発行予定(※切：2月28日) 夏号 7月10日発行予定(※切：5月31日)
秋号 10月10日発行予定(※切：8月31日) 冬号 1月10日発行予定(※切：11月30日)

コンサートガイド無料掲載申込書

① 合唱団名															
② 演奏会名称															
③ 開催日時															
④ 会場															
⑤ 入場料等															
⑥ 問い合わせ連絡先															
⑦ コメント (条件：全角50字以内、句読点は1文字換算、数字アルファベットは基本半角)															

取材希望団体募集：合唱団訪問「こんにちは、KANONです!」のコーナーでは、取材を希望する団体を募集中。神奈川県合唱連盟事務局までご連絡ください。スタッフが伺います。

編集後記：親しみやすく読みやすいカノンを目指して、現場の皆さんの声を集めてご紹介してみました。合唱連盟の年間行事には有意義で楽しい催しがたくさんあります。いつもと違うイベントにもぜひご参加くださいね!

神奈川県合唱連盟 情報誌「Kanon(カノン)」

編集・発行 神奈川県合唱連盟・カノン編集委員会
発行責任者 松村 努 編集責任者：青山 道代

神奈川県合唱連盟・事務局

〒231-0021

横浜市中区日本大通 15 横浜朝日会館 4 階

TEL：045-681-6033 FAX：045-662-5119

スタッフ常駐：平日：月火木金(休祝日を除く) 12:00～16:00

URL <http://kanagawakenren.la.coocan.jp/>

e-mail アドレス kanagawakenren@nifty.com

